

### 七夕まつり、交通実験、そして今

### 『豊中駅前まちづくり構想』とは？②

このシリーズは、この豊中駅前を、まちの多くの人々が願う『安全で安心して楽しく歩き回れるまち』にするにはどのようにしていけば良いかをみなさんと共に考えて行きたいと企画しました。ご意見、ご感想をFAX又はメールにてお寄せ下さい。

豊中駅前まちづくり推進協議会 事務局

#### 連絡先

FAX：06 - 6858 - 6190 / メール：at.machi@mail.tmconet.com

——なぜ「まちづくり構想」をつくったのですか？  
構想がなくても、地域の団体などそれぞれで努力すればうまくいきませんか？

【西岡】きっと最初は、まちがこれからどう変わって行くのか、自分たちの商売や暮らしなど将来への不安と今のままでいいのかという疑問が出発点だったのではないかと思います。

構想の議論がはじまった当時1990年前後を振り返ると、たとえば豊中市の人口はピークが1986年(417182人)で、翌年から毎年1%前後で減少しはじめる。商店数は1982年がピークで2007年にはピーク時の4割になる。従業員数もピーク時の7割程度。豊中駅の乗降客数は1980年代後半をピークに減少傾向になっていきます。

豊中駅前には郊外ターミナルとして多くの人や車が行き交い、慢性的な渋滞や貧弱な歩道、駐車場不足などの問題も抱え、また周辺都市の開発との競争も激しくなっていました。今でこそ貧困が問題になり、将来への不安はみんな共通に持っていますが、20年前はまだその実感はなかったと思います。でも先行きへの不安を確かに感じていた人達もいました。しかしそこに実は1つの解決のチャンスが現実的になっていました。阪急電車の高架化(豊中から曽根まで)と駅周辺の整備事業(西口再開発を含め)です。

——高架や道路整備は役所がするのだから、結果を待てばよかったのでは・・・？

【西岡】問題は、駅前の公共整備にあわせて、店や地域がどう変わるか、変わるかだったと思います。売出しや豊中まつりなど商店街の活動だけでいいのか？若手と言われる2代目、3代目の事業者は、自分たちの商売だけでなく、駅前の商業やサービス・飲食業などの姿も変わるだろう、新しい魅力もほしい。そうしないと変化を先取りする周辺のまち(梅田、川西能勢口、池田など)との競争に負けるとの不安があったと思います。豊中駅前の開発が早かった分、古くなった建物の使い勝手も悪くなって来ていて、魅力の低下も避けられませんでした。

——建物や周りの環境、そして商売も住まいも良い方向に変化させたかった。そのための豊中駅前のビジョンや構想を作る必要があったということ

とですか？

【西岡】その通りです！チェンジが必要だったのです。しかし今のままでは主体的に変わらないのでは・・・？という不安もあったのでしょうか。そうした思い・意思を構想という形にしたのです。そしてもっと大事なことは、どうしたらそのチェンジを実現できるかを考えたことです。良い方向への変化を積み重ねるため、構想を実現するために、まちづくり協議会という仕組みをつくり、共同事業の仕組みをつくらうとした。

——まちづくりって、都市計画などの行政パワーを使って進める方がやり易いのではないのでしょうか？

【西岡】都市計画などの制度は、もともと「都市の空間をつくる行為を市場経済から隔離する技術」だと言われています。駅前ではその市場経済が強すぎるため、都市計画や公共事業は歯が立たないし、個別のパワーに任せては効率が悪い。市場(地域)の投資(自助)努力を大事にして、しかもバラバラなまちにならない工夫、仕組みを考えた方が良いということでしょうか。かつて「商品を並べたらすぐ売れた」時代なら、それぞれ勝手にやっいても全体の成長は保てた。しかし、低成長の時代に、快適で歩いて楽しい街並みや商店(街)をつくるには工夫が必要です。構想の検討から約20年。

ちょうど「日本の失われた20年」とも重なります。果たして、まちづくりに果たした構想の役割は何だったか、何が足りなかったのか。次回は、それを考えます。

※構想検討の時期の豊中のまちづくりの事情や地域課題を知るには、豊中市産業振興ビジョン(市のホームページで)が便利です。

——今日は有り難う御座いました。

まちづくり構想 ~豊中駅前の将来像~

(4) 全体構想図



『まちづくり構想』はまちづくり会社内まちづくりセンターにあります。ご希望の方は1,000円にて頒布しております。

会  
員  
募  
集  
中

共に、生き生きとした、誇りが持てる、安心して  
住み続けられるまちづくりを進めませんか

年会費(一口以上何口でも)  
個人会員一口 300円  
商店会員一口5,000円

問い合わせ先：  
まちづくりセンター(協議会事務局)  
TEL / FAX: 06 - 6858 - 6190